

第5学年国語科学習指導案

指導期間 平成16年8月30日～9月9日
指導学級 平泉町立平泉小学校5年B組
男子14名 女子12名 計26名
指導者 遠藤 伸枝

1 単元名「話し手の考えをとらえながら話を聞こう」

2 単元について

(1) 児童について

児童はこれまで、発表会形式のもの、スピーチを取り入れたもの、クイズショーなど様々なタイプの「話すこと・聞くこと」の授業を行ってきた。しかし、聞き取りメモなどを取り入れてみても児童の関心は話すことの方に向きがちで、なかなか聞くことに重点を置くことができなかった。そのためか児童は聞くことに対して苦手意識がなく、あらためて勉強するものという意識はないようだ。実際は、話を漠然と聞いている児童が多く、話の内容に対する自分の考えを持てずにいるように見受けられる。そのためか、話し合い活動をして意見や質問を返せる児童に限られている傾向がある。実態調査の結果からは、聞いたことに対する自分の考えを発言しようとしていない児童のうち8割の児童が、話を聞いてメモをとることをしていないことが分かった。このことから、メモを取らないで聞いている児童は聞いた話の把握も弱いとも考えられる。

(2) 単元について

本単元は、学習指導要領の第5学年及び第6学年の「A話すこと・聞くこと」の目標「目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。」に基づいて設定されたものである。ここでは、メモを取りながら話を聞き、自分の考えも交えて話し手の話を再構成する学習を通して、話し手の意図をつかみながら聞く力を育成しようというものである。聞くことは受動的な活動のようにとらえられることが多いが、能動的な活動であることを児童にも認識させ、自分の考えをもちながら主体的な聞き取りができるような学習に取り組みさせる。本単元では聞き取り再構成メモ「キャッチメモ」を用い、聞き取りの観点に着目する段階、キーワードを見付ける段階、話し手の伝えたかったことを受け止める段階と、3段階構成で学習を進める。

(3) 指導について

この単元では「聞くこと」の勉強であることを児童にもしっかりと認識させ、自分の聞く力がどのくらい高まったか意識をもたせながら進めるような学習にしたい。

まず最初にこの学習の概要をつかませ、すぐ聞き取りの観点に着目する段階に入る。この段階では、話を聞き取るときの観点を押さえ、何に着目して話を聞けば話し手の伝えたかったことを聞き取れるようになるのかを「ポイントキャッチメモ」を用いて指導する。次は、聞き取りの観点を通してメモを取り、その中からキーワードを見付ける学習を「キーワードキャッチメモ」を通して指導する。キーワードを見付けるときも聞き取りの観点を意識させたい。次は、話し手の伝えたかったことを受け止める段階に入り、それまで学習してきたことを使いながら、話し手の伝えたかったことを聞き取り、それに対して自分はどう考えたのかを表出するところまでを「ハートキャッチメモ」を用いて指導する。ここでは、話し手の伝えたかったことを自分の考えを交えて再構成することに重点を置いて指導するが、この段階は今まで習ってきたことを使って学習を進めるところなので、時間をかけ、復習の意味も込めて丁寧に指導していきたい。

3 単元の目標

話し手の意図を考えながら話を聞くことができる

- ・話を聞くときの観点が分かり、キーワードをとらえることができる。
- ・話し手の伝えたかったことを、自分の考えも交えて再構成することができる。

< 第1時 >

(1) 目標

話を聞くときの観点を理解し、観点に沿って話を聞くことができる

(2) 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (キャッチメモの使い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する 話を聞くときのポイントをつかみ、話を聞いてみよう	
展 開 (35)	2 話の組立てを知り、話を聞いて分けてみる 3 話の組立ての中で、話し手が特に伝えたいことは「はじめ・中・終わり」のどの部分にくることが多いか考える 4 文末表現に着目させて、事実を表す文と意見を表す文に分ける 5 話を聞き、演習をする	<ul style="list-style-type: none"> ・「はじめ・中・終わり」の3段構成を指導する ・3文スピーチ、5文スピーチを用いて説明してから演習に入る ・演習で使ったものを用いて考えさせる（頭括型、尾括型のスピーチを聞かせる） ・尾括型の場合、接続語にも着目させる ・演習で使ったものを用いて考えさせる ・最初は文を見ながら話を聞く ・文章を「はじめ・中・終わり」の枠に当てはめさせる ・着目する接続語や文末表現に線を引かせる ・2回目は、文は見ずに話を聞くだけで演習に取り組む
終 末 (5)	6 話を聞くときの観点についてまとめる 7 次時の予告をする	<ul style="list-style-type: none"> ・話の組立て、接続語、文末表現に着目することを確認する

(3) 評価

話を聞くときの観点に着目することができるようになったか。

< 第2時 >

(1) 目標

メモの取り方を理解し、キーワードをとらえることができる。

(2) 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (キーワードキャッチメモの使い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する メモの取り方を知り、キーワードを見付けよう	
	2 簡潔なメモの取り方を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・大事だと思うことだけを短く書くこと ・言葉を囲んだり、線で結んだり、記号を使っ

展 開 (35)	3	話の組立てに着目してメモを取る	・既習の話の組立てに着目し、「はじめ・中・終わり」の欄に当てはめてメモを取らせる
	4	メモの中から、キーワードを選ぶ	・意見を表す文に着目し、話し手の伝えたかっ たと思われることに直接かかわる言葉を選ぶ
	5	全員でどれがキーワードか話し合う	・キーワードが足りなかったり、多すぎたりし た場合はメモを修正していく
	6	キーワードから感じ取れることをまとめる	・話し手が一番伝えたかったことを簡単にまと める
	7	演習をする(3話)	
終 末 (5)	8	メモの取り方、キーワードの選び方を確認する	・メモは短めに取り、線で結ぶなどの工夫をす るとよいことを確認する ・キーワードは、意見を表す文に着目して話し 手の伝えたかったことにつながる言葉を選ぶ ことを確認する
	9	次時の予告をする	

(3)評 価

メモの取り方が分かり、キーワードを選べるようになったか。

<第3時>

(1)目 標

話し手の伝えたかったことを自分の考えも含めて組立て直すことができる

(2)展 開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (ハートキャッチメモの使い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する 話し手の伝えたかったことを自分の 考えも含めてまとめよう	
展 開 (35)	2 話を聞き、メモを見ながらキーワードを 選ぶ	・既習事項を生かして取り組ませる ・短い話から始め、徐々に長さや話の種類も変 えていく ・話し手の話を伝聞の形で表すことにより、話 し手の話という感覚を強調する
	3 話し手の伝えたかったことを組立て直す	・初めは話し手の話全体に対する考えを簡単 に添えるところから、徐々に自分の考えを織 り交ぜて組立て直すようにする
	4 組立て直したものに自分の考えを添える	・自分の組立て直した文も見直し、加除修正 したい部分がある場合は自分で行う

	5 指導者の組立て直した例文を見ながら、話し手の伝えたかったと思われることやキーワードを確認する	
	6 演習をする（1話）	
終末 (5)	7 演習でまとめたものを発表する	・参考にして欲しいところを強調する
	8 次時の予告をする	

(3) 評価

自分の考えも交えながら、話し手の伝えたかったことを組立て直すことができたか。

<第4時>

(1) 目標

キーワードを基に、話し手の伝えたかったことを自分の考えも含めて組立て直すことができる

(2) 展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (ハートキャッチメモの使い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> キーワードからすぐ話し手の伝えたかったことをまとめよう </div>	
展 開 (35)	2 話を聞き、メモを見ながらキーワードを選ぶ 3 キーワードを基に話し手の伝えたかったことを自分の考えも交えながら組立て直す 4 全員で話し手が伝えたかったと思われることとキーワードを確認する 5 演習をする（1話）	・既習事項を生かして取り組ませる ・キーワードを振り返ることで話の内容を振り返り、それに対する自分の考えも交えながら、話し手の伝えたかったことを組立て直す ・組立て直した文に、話し手の伝えたかったこととキーワードと、自分の考えが交えてあるか確認する
終 末 (5)	6 演習でまとめたものを発表する 7 次時の予告をする	・参考にして欲しいところを強調する

(3) 評価

キーワードを基に、自分の考えも交えながら話し手の伝えたかったことを組立て直すことができたか。

< 第5時 >

(1) 目 標

話し手の伝えたかったことを自分の考えも含めて組立て直すことができる

(2) 展 開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (ハートキャッチメモの使い方)
導 入 (5)	1 学習課題を把握する 話し手に話しかけるようにまとめ てみよう	
展 開 (35)	2 話を聞き、メモを取り、キーワードを選 ぶ 3 キーワードを基に話し手の伝えたかった ことを自分の考えも交えながら、話し手に 話しかけるようにまとめる 4 演習をする(1話)	・既習事項を生かして取り組ませる ・話し手に話しかけるように書くことで相手意 識をもたせ、話し合いの場面にも応用が利くよ うにする
終 末 (5)	5 まとめたものを発表する 6 次の時の予告をする	・参考にして欲しいところを強調する

(3) 評 価

キーワードを基に、自分の考えも交えながら話し手の伝えたかったことを、話し手に話しかけるようにまとめることができたか。